



慶應義塾大学ビジネス・スクール

カーバー・コンソリデーテッド・プロダクツ社 (A) Carver Consolidated Products.

1967年3月、カバー・コンソリデーテッド・プロダクツ社の家庭用紙製品事業部マネジャーは、在庫と流通の問題に关心を寄せていた。彼は、カーバー社のアムホール工場（グリーティング・カードを製造している）の在庫と流通の問題解決にあたり、どの程度の援助を受けられるかを、同社の経営情報システム室担当取締役 Roger Halverson 氏に問い合わせた。

カーバー社アムホール工場

1967年に、カーバー社は創業90年を迎えた。1966年度の売上高は創立以来最高の5億4,000万ドルに達したが、これは3年前のちょうど2倍の額である。同社は多くの事業部を持ち、その成長の主な要因は吸収合併である。1964年、家庭用紙製品の分野への拡張をねらって、カーバー社は、年間売上高約1,400万ドルの季節用グリーティング・カード製造会社であるアムホールを吸収した。

アムホール工場の事務所と製造部門はシカゴの近くにあり、30年間操業してきた。創業以来、主としてクリスマス、バレンタイン、復活祭用のカードのデザイン、生産、販売を行なっており、カーバー社にとって、アムホール工場は特殊な管理を必要とするところとされていた。季節品以外の日常品（誕生日用記念日用カードなど）も多少は生産されていたが、約80パーセントは季節商品であった。これらの製品は、7つの地区担当販売マネジャーのもとで働く約120名のセールスマンが販売にあたっていた。7つの地区の上には2つの地域マネジャーがいた。また、この販売部門では、家庭用紙製品事業部下の他の工場の製品である紙食器や風変りな製品も取扱っていた。販売部門の取扱い販売店数は6,000軒に達していた。

クリスマス用製品は2,500種類、バレンタイン・カードと復活祭カードはそれぞれ1,000種類もあった。これらのカードは“価格ータイトル”別に分類され、1分類に1

このケースは、ある匿名希望の企業から提供されたものであり、企業の管理上の効率を見るためではなくグループ討議の資料用として、フランクリン W. マクフアラン博士が Sterling Institute のために作成したもの。

Copyright © 1968 by Sterling Institute Inc. の許可により転載。
なお、当ケースの翻訳権は建帛社により取得されている。慶應義塾大学ビジネス・スクールは当社の好意ある許可を得てこれを教育のために再製した。